

のう まめ ち しき  
**能の豆知識**

つき きゅうでん つと てんにん  
**月の宮殿に勤める天人**

まん げつ  
**満月**

しろ ころも てんにん にん  
白い衣の天人が15人  
きゅうでん なか じょうたい  
宮殿の中にある状態



み か つき  
**三日月**

しろ ころも てんにん にん  
白い衣の天人が3人、  
くろ ころも てんにん にん  
黒い衣の天人が12人  
きゅうでん なか じょうたい  
宮殿の中にある状態

のう はごろも つき きゅうでん しろ ころも てんにん にん くる ころも てんにん  
能<羽衣>では、月には宮殿があり、白い衣の天人が15人と黒い衣の天人  
にん まいばん つと うた しろ ころも てんにん きゅうでん はい  
が15人毎晩勤めていると謡われます。白い衣の天人が、ひとり宮殿に入ると、  
くる ころも てんにん きゅうでん で しろ ころも てんにん にん きゅうでん とき  
黒い衣の天人がひとり宮殿から出ます。白い衣の天人が15人宮殿にいる時が  
まんげつ しろ ころも てんにん きゅうでん で つき か きゅうでん てんにん  
満月で、そこから白い衣の天人が宮殿を出るごとに月が欠け、宮殿にいる天人  
すべ くる ころも とき しんげつ しろ ころも てんにん ふ  
が全て黒い衣の時は新月です。そこから白い衣の天人がまたひとりずつ増え、  
やがてまたまんげつ うたい さん ご や ちう じゅう ご や まんげつ  
やがてまた満月になります。謡にある三五夜中とは、十五夜(満月)のことです。  
この能に登場する天人も、月の宮殿に勤める「月の色人」の一人なのです。

き かく うんえい こうえき ざいだん ほうしん やまもと のうがくどう  
**企画・運営：公益財団法人 山本能楽堂**

やまもと のうがくどう  
**山本能楽堂とは？**

おおさか し ちゅうおうく やまもとのうがくどう のう げんだい い みりょくてき げいのう  
大阪市中央区にある山本能楽堂では、能を「現代に生きる魅力的な芸能」  
あた した しでん た こうえん き かく かいさい ろうにやく ねんによ と のう  
ととらえ、新しい視点に立った公演を企画開催し、老若男女問わず「能」を  
き がる ほんかくてき たの かんきょう とく  
気軽に、かつ本格的に楽しめる環境づくりに取り組んでいます。  
また、子どもの感性を大切にしたい能のアウトリーチ事業にも積極的に取り組んで  
おり、平成21年3月、パナソニック教育財団奨励賞を受賞し、平成22年度  
「小学社会6年・上(文教出版)」教科書表紙に写真協力もしています。  
平成23年には、子どもたちに日本文化を継承するため先駆的な取組をしている  
団体として、第42回博報賞も受賞しました。



し じゅうがつつたち こくさい おん がく ひ  
**知ってますか?~10月1日は「国際音楽の日」です~**

ねん ようせい せつりつ こくさいおんがくひようぎ かい かい ぎ よくとし ねん まいとし がつつたち  
1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、  
せかい ひとびと おんがく つう たが なかよ こくさいおんがく ひ  
世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることと  
しました。日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

公益財団法人 **山本能楽堂**

でん とう げい のう あそ  
**伝統芸能と遊ぼう!**

のう は ころも  
**能「羽衣」**

と

きょう げん かき やま ぶし  
**狂言「柿山伏」**



**プログラム**

- 始まりの挨拶
- 謡の練習
- 狂言のお話
- 能の囃子(楽器)の解説
- 本日の演目「柿山伏」の説明
- 狂言「柿山伏」の鑑賞
- 本日の演目「羽衣」の説明
- 能「羽衣」の鑑賞
- 質問コーナー
- 終わりの挨拶

文化芸術による子供育成推進事業 一巡回公演事業

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。事前のワークショップでは、子供たちに実演指導または鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。



公益財団法人 山本能楽堂より許可を受けた方以外の写真撮影・録音・録画はご遠慮ください。

きょうげん かき やま ぶし はなし  
**狂言「柿山伏」のお話**

やまぶし しゅぎょう お こきょう かえ とちゆう かわ み みこと かき き  
 山伏が修行を終えて故郷に帰る途中、のどが乾いてしまい、ふと見あげると見事な柿があることに気づきます。木の下から落とそうと試みますが、中々巧くいかなかったので、木に登って柿を食べていました。ところが、誤って口にしてしまった渋柿を投げ捨てたところ、見廻りに来ていた柿の持ち主に渋柿が当たってしまい、無断で柿を食べていたことに気づかれてしまいます。柿の木に登っているのは犬だ、猿だ、鳥だ、とびだと言われる度に、それらの動物の鳴き真似でその場を凌ぐものの、しまいに鶯は飛ぶものだ、と言われてしまい、結局飛んでは見るものの、大怪我をしてしまい悪事がばれてしまいました。

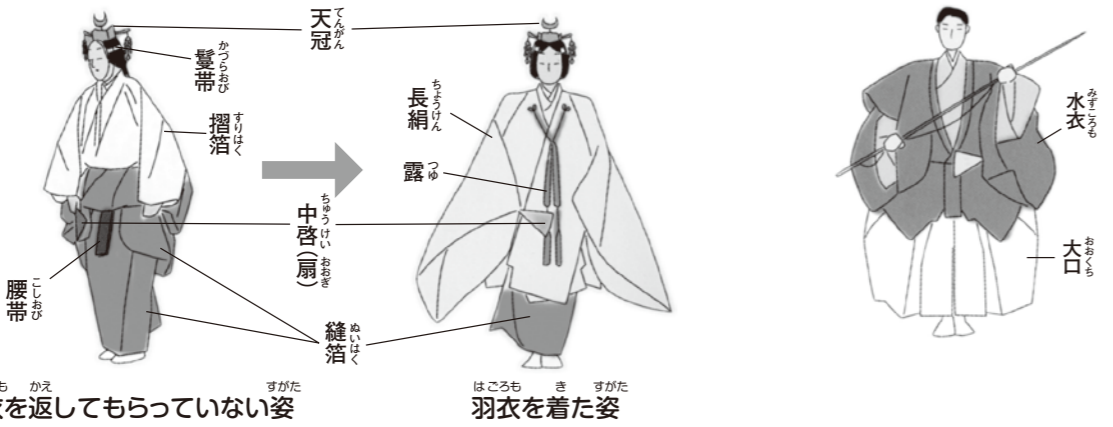
のう は ごろも はなし  
**能「羽衣」のお話**

はる あさ するがのくに み ほ まつばら す りょうし はくりょう つ で まつ えだ うつく ごろも み  
 春の朝、駿河国三保の松原に住む漁師・白龍は、釣りに出たおりに、松の枝にかかった美しい衣を見つけます。家宝にしようと持ち帰る白龍に、天女が現れて声をかけ、その羽衣を返して欲しいと頼みます。白龍は、はじめ聞き入れず返そうとしますが、「それがないと天に帰れない」と悲しむ天女の姿に心を動かされ、天女の舞を見せてもらう代わりに、衣を返すことにします。羽衣を着た天女は、月宮の様子を表す舞などをみせ、さらには春の三保の松原を賛美しながら舞い続け、やがて彼方の富士山へ舞い上がり、霞にまぎれて消えていきました。

とう じょう じん ぶつ  
**登場人物**

てんにょ  
**天女(シテ)**

りょうし はくりょう  
**漁師・白龍(ワキ)**



はごろも かえ すがた  
 羽衣を返してもらっていない姿

はごろも き すがた  
 羽衣を着た姿

のう  
**能について**

のう ねんまえ う せかい いちばんふる かめんげき ねん せかい むけい いざん  
 能は650年前に生まれた世界で一番古い仮面劇です。2008年にユネスコ世界無形遺産になりました。

のう ものがたり げき うた おんがく あ のうめん たう ま げいのう たう はたら ひと  
 能は物語などを劇にして、歌や音楽に合わせて、能面をつけて舞う芸能です。田植えのときに働く人をはげまし、楽しませる田楽や、こっけいなおどりをする猿楽があわさってできました。そして、能の役者で作者でもあった観阿弥とその息子の世阿弥が、將軍足利義満の庇護を受けたことで大きく発展しました。豊臣秀吉をはじめとする、戦国時代の武将たちは熱心な能の愛好家で、衣装や能面を作らせて自ら能を演じました。そのため、能の所作や構えは剣術とよく似たものになっています。

のうがく たいせいしゅ ぜ あ み どり えんげきろん あらわ せい き しょとう ねん いじょうまえ  
 能楽の大成者である世阿弥が独自の演劇論を現したのは15世紀初頭。シエークスピアより200年以上前のことです。後に発生した歌舞伎、文楽等あらゆる芸能に影響を与えています。



は ごろも  
**羽衣をうたってみましょう！**



クリ  
 上 へ  
 中 へ  
 下 へ

クリ  
 上 へ  
 中 へ  
 下 へ

クリ  
 上 へ  
 中 へ  
 下 へ

クリ  
 上 へ  
 中 へ  
 下 へ

クリ  
 上 へ  
 中 へ  
 下 へ

クリ  
 上 へ  
 中 へ  
 下 へ

クリ  
 上 へ  
 中 へ  
 下 へ

クリ  
 上 へ  
 中 へ  
 下 へ

クリ  
 上 へ  
 中 へ  
 下 へ

クリ  
 上 へ  
 中 へ  
 下 へ

クリ  
 上 へ  
 中 へ  
 下 へ

クリ  
 上 へ  
 中 へ  
 下 へ

は ごろも  
**羽衣**

ごぐんえんまんこくどじょおじゅ  
 御願円満国土成就。  
 しっぽおじゅまん たから ぶ  
 七宝充滿の宝を降らし。  
 こくど ひど あた ほと くだ  
 国土にこれを。施し給ふ  
 さる程に。時移って。  
 あま は ごろも  
 天の羽衣。  
 うら かせ たなび  
 浦風に鬨き騒ぐ。  
 み お まつばら うきしま くも  
 三保の松原浮島が雲の。  
 あしたかやま ふ じ たか ね  
 愛鷹山や富士の高嶺。  
 かすかになりて。天つ御空の。  
 かすみ まぎ う  
 霞に紛れて。失せにけり

げん だい ご やく  
**現代語訳**

ほどけさま ねが えんまん は こくど ほんえい  
 仏様の願いが円満に果たされ、国土が繁栄するようにと、  
 ななしゆるい たから ぶ  
 七種類の宝をたくさん地上に降らして、  
 こくのくに ひど あた ほと くだ  
 この国の人に与えて下さっている。  
 そうしている間に時が過ぎて、  
 あま は ごろも  
 天の羽衣は、  
 うら かせ たなび  
 浦に吹く風にたなびいて、  
 み ほ まつばら うきしま はら くも うご あしたかやま  
 三保の松原から浮島が原、雲の動く愛鷹山へ、  
 さらには富士山の上空へと、天人は舞い上がり、  
 やがて姿もかすかになって、ついには大空の  
 かすみ なか み  
 霞の中にまぎれて、見えなくなりました。

